

1 研究の目的

「集団が個を育てる」(國分ほか, 1998)という。小学校の学習指導は学級づくりの色彩が濃い。本研究は構成的グループエンカウンターを学習指導に取り入れることによって、子供たちが学習に対する意欲を高め、個の学習を深めていくことを目的としている。そして人間関係づくりを目的とした構成的グループエンカウンターの効果について検証していきたい。

構成的グループ・エンカウンター (Structured Group Encounter) とは

構成的グループ・エンカウンター(以後SGEと示す)とは、國分氏が1970年頃に我が国に紹介普及した技法である。SGEは「ホンネとホンネのふれあいによる人間関係をグループを活用して体験する方法」である。育てるカウンセリングとも呼ばれる。

育てるカウンセリング (國分 1998)

不登校やいじめ、授業不成立などの問題が起こったときに、解決を援助するのが「治すカウンセリング」。一方こうした問題を予防したり、子供の適応や自己成長を援助したりするのが「育てるカウンセリング」である。育てるカウンセリングは、教師が日常的に使えるカウンセリングである。その目標は自分で問題に対処する能力を育て、自分で問題を予防し、自分で自分を成長させていく能力を育てることにある。

2 実態

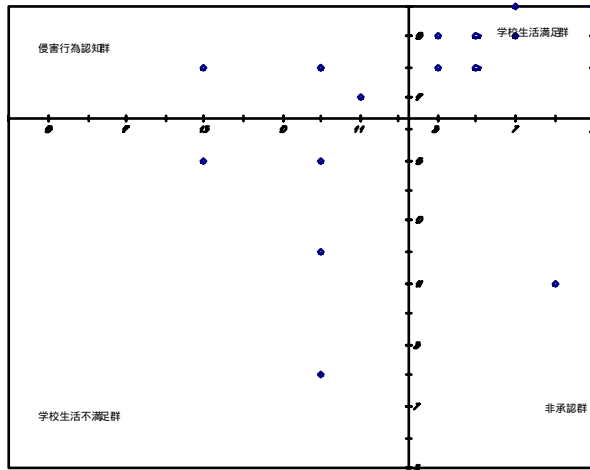
(1) 行動観察から

- ・小学校2年生。男子9名、女子12名。小規模校で1学年1学級。幼稚園からほとんど同じ仲間でも過ごしているため、人間関係の固定化が見られる。
- ・自分のよいところや得意なことを見つけられずにいる子供がおり、学習に対しても「分からない」と最初からあきらめきっている雰囲気がある。
- ・自己中心的な考えをもち、遊びの仲間に入っていけないのは他人のせいだと思っている子供がいる。
- ・素直な子供が多く、褒められるととてもうれしそうにし、次への意欲を強く示す。
- ・友達が困っていると、進んで手を貸そうとする子供が多い。

このようなことから、温かな雰囲気をもった集団づくりの必要性を強く感じた。

(2) 質問紙から

子供の実態や学級集団の状態をより客観的に把握するために「Q-U学級生活満足度尺度」を実施した。



(5月実施)

互いが理解し合える学級づくりをする必要があると感じた。

全体的にばらつきの目立つプロット図になった。4つの群すべてに子供が分布している。侵害行為認知群の子供の中には、「友達が自分のいうことを聞いてくれない。」「注意しても分かってくれない。」などと訴えて来る子供が多く、自己中心的な面が見られた。また、満足群にいる子供の中には学級の中で勝手に話をしたり、教師に反発したりする子供がいた。これらのことから、ストレスを感じている子供もいると考えられる。そのため、子供同士お

Q-U学級生活満足度尺度とは？

子供や学級の日常的な観察と併せて、子供の内面を調査する尺度を利用すると、より学級の状態を把握しやすくなる。ここでは、その尺度として「Q-U学級満足度尺度」(河村茂雄・田上不二夫)を使った。小学校1,2年生用は標準化されたものがないので「Q-U実施・解釈ハンドブック・小学校用(図書文化)」を参考にした。Q-Uはアンケートの結果を下に子供が学級にどのくらい満足しているかを測る尺度である。結果は承認得点(どのくらい認められているか)と被侵害得点(いじめや悪ふざけを受けているという思い)の二つを組み合わせで測定する。測定したものは「学級生活満足群」「非承認群」「侵害行為認知群」「学校生活不満足群」の四つに分けられ、座標軸にプロットされる。視覚的にも見やすく、個人と学級の両側面を把握できるという利点をもっている。また短時間で実施・集計でき、変化も見やすい。

3 研究の仮説

構成的グループ・エンカウンターは、自己理解や他者理解を促し、信頼感や自尊感情を高める効果があることが実証されている(國分他1996)。SGEは集団カウンセリングの一つの方法であり、人間関係づくりと自己発見を目的としている。よって、SGEを授業の中に取り入れることによって温かい雰囲気をつくり、お互いを理解し合うことができるのではないかと考えられた。

S G Eを授業に取り入れることによって、温かな雰囲気を持ち、お互いを理解し合うことができる学級づくりができ、学級の中の人間関係づくりが促進されるのではないか。その結果、学級生活に満足感を得ることができるのではないか。

4 研究の実際

実践例 1 SGE を取り入れた、国語科学習の実際

単元名 「お手紙こうかん会」(光村 2年上)

目標

友達に聞きたいことや教えたいことを質問したり、手紙に書いて交換したりする。
お手紙交換会の感想を書き、手紙を交換する楽しさに気づく。

学習の流れ (10 時間)

学習の流れ	時数	学習活動	支援のポイント
友達に聞きたいことを探そう	4	友達のこと知りたこと、疑問に思っていることを探するために話し合いをした後、次の3つのSGEを行う。 1 インタビューゲーム(2人組) 2 サイコロトーク(4人組) 3 たんていビンゴ(学級)	SGEを通して友達の新しい面を発見するようにシェアリングにおける発言を大切にする。 SGEを通し、自分から進んで話したり、質問したりできるように質問の仕方、聴き方、質問への答え方の指導をする。デモンストレーションを入れながら具体的に指導する。
友達に手紙を書こう	2	手紙を書く。	仲良しの友達だけでなく、SGEを通して「聞いてみたい」「教えてあげたい」と思った友達にも書くよう、助言する。

			誰もが手紙をもらえるよう配慮する。
もらった手紙に返事を書こう	2	手紙を交換して、自分に来た手紙に返事を書く。	返事をもらったことのうれしさを出し合い、感想文を書く活動につなげるようにする。
「お手紙こうかん会」の感想を書こう	2	「お手紙こうかん会」をして、うれしかったことや心に残ったことを書く。	手紙のやりとりから、新しい自己理解を促す。 感想文を読み合い、感想の交流をする。

SGEの進め方

インタビューゲーム

友だちの得意なことや「秘密（話してもいい範囲内の）」を知るための方法の一つとして行う。

- 1 まず、質問の仕方を学ぶ。
自分から進んで聞く。
聞きたいことを相手に聞こえる声で、最後まではっきりと聞く。
目を見て、近づいて聞く。
お礼を言う。
- 2 質問の答え方を学ぶ。
はっきりと相手に聞こえる声で答える。
分からないとき、答えたくない時は、はっきりと「分かりません」と言う。
目を見て答える。
- 3 ペアを決める。(はじめは隣にすわっている子がよい)
- 4 ジャンケンをして勝ったほうが負けた方に一つだけ質問をしする。負けた方はそれに答える。
- 5 再びジャンケンをし・・・それを繰り返す。(3分間ぐらい)

実践例2 SGEの流れを生かした生活科学習の実践

単元名 ようこそあそびのくにへ

目標 昔遊びを体験することによって、人と関わりながら遊ぶ楽しさを味わう。

学習の流れ(10時間)

	インストラクション	エクササイズ	シェアリング	
子供のつぶやきや発言	<p>「みんなだいすき」になるためにどんなことをしたらよいか。</p> <p>ぜん校のみんなといっしょにあそびたい。あそびのおみせをひらきたい。</p> <p>ゲーム、さかなつり、めいろ等</p> <p>「ようこそあそびのくにへ」というだいめいにしようよ。</p>	<p>エクササイズ1</p> <p>「遊びの先生こんにちは。」</p> <p>・地域のボランティア, 保護者に先生になってもらい昔遊びを体験する。</p> <p>エクササイズ2</p> <p>「ようこそあそびのくにへ」</p> <p>・教えてもらった遊びを通しての関わり, 教え合い, 練習する。</p> <p>・地域の皆さん, 保護者を招待して上手になった遊びを披露する。</p>	<p>-----</p> <p>簡単にはできな</p> <p>いからすぐあ</p> <p>きらめるんだ</p> <p>な。</p> <p>-----</p> <p>子供どうし教</p> <p>えあってほし</p> <p>いのに。</p> <p>-----</p> <p>すぐにできな</p> <p>いと言うのは</p> <p>なぜかな。</p>	<p>こまがとくいになった。こまはテレビゲームよりおもしろいね。 ちゃん</p> <p>ができたとき自分もつれしくなった。さいしょはできなかったけど、一度</p> <p>できたらおもしろくなった。とくいなものができてしんがった。</p> <p>お父さんがこまがとくだといつことを発見した。もっとやりたい。</p>
教師の心の中	<p>遊びの世界を広げたい。昔遊びを体験させてみよう。</p>			
	<p>できない。つまらない。おもしろくない。どうしてすぐにできるようにならないんだろう。</p>	<p>できた。とてもうれしい。次は に挑戦するぞ。教えてもらったらじょうずになった。みんなにも教えてあげたい。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・できるまで粘り強くがんばる気持ち。 ・できたときの喜び。 ・遊びを介する関わり。(競争・教え合い・我慢する・ゆずる) ・ルールを守ることの大切さ。 ・ルールを工夫することの楽しさ。 			

実践例3 シェアリング（分かち合い）を生かした国語科学習の実践

単元名 ようすを考えて読もう～「お手紙」アーノルド・ローベル作～

目標 場面の様子を考えながら読み，お話を楽しむことができる。

本時の実際（ 5 / 14 ）

めあて がまくんとかえるくんの心情について想像を広げながら読む。

学 習 活 動	教 師 の 支 援
<p>1 教材文を音読する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>がまくんの気持ちが変わったのはどのときでしょうか。</p> </div>	
<p>2 がまくんの気持ちが変わった部分を教材文から探し，発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの考えが出たのち，自分の考えと同じ子供同士で集まりグループを作る。 ・まだ決めかねている友達のために，なぜ，そう考えたのか発表する。発表内容に納得がいき，自分の考えがまとまったら，グループに参加する。 ・さらに，自分たちの考え方を確認し分かち合う。 ・気持ちが変わった部分はどこか，全体で話し合う。 ・話し合いの結果，考えが変わった場合はグループからぬけ，自分の考えに合ったグループに移動する。 ・最終的に一つに絞り込む。 <p>3 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習を終えた気持ちを分かち合う。 	<p>叙述に即して探すように話す。</p> <p>気持ちの変化を読み取るための話し合いをする中で，次のような人物像をおさえるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かえるくんの言葉や行動は，がまくんへの優しさであること。 ・がまくんはかえるくんの優しさを受け止めて，心から喜んでいること。 ・共に喜び合う間柄であること。 <p>なかなか自分の考えをもてない子供には，友達の意見を参考にしてもよいことを助言する。</p> <p>子供たちがどんな発言でも受け止められるように，肯定的なひとことを付け加えるようにする。</p>

5 研究の結果

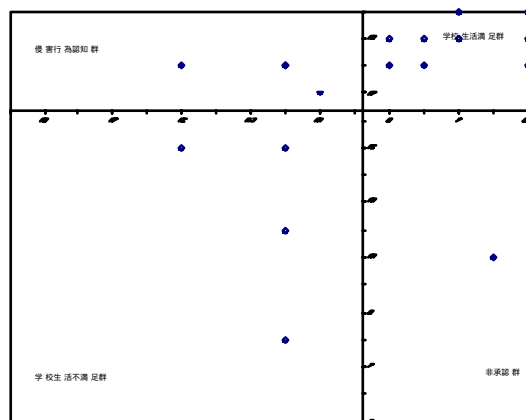
(1) 行動観察から

- ・ 友達の話に耳を傾け、友達の行動に関心を示すようになった。
- ・ 友達のよいところやがんばっている点を言葉にしてほめる子供が増えた。
- ・ グループ活動で、なかなか参加できない子供に対し、優しく声をかけることができるようになった。

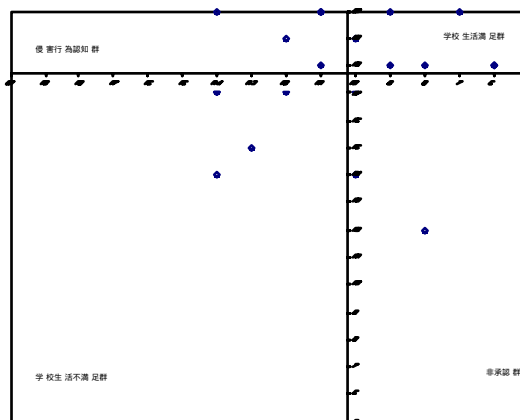
(2) 質問紙から

第1回目(5月)と第2回目(11月)のプロット図を比較すると、全体的に承認得点が上昇しており、ばらつきのあったプロットが満足群の方へ移動していていることが分かる。また、侵害行為認知群の子供が減っている。侵害行為認知群の子供たちは、ありあまるエネルギーの向けどころを見つけられずにいたが、生活科の学習において、自分の得意なことを見つけたり、国語の学習において、自分の意見を認められるようになってきた。そのためエネルギーを上手に発散できるようになったのではないかと考えられる。また、不満足群にいた子供についても自分に自信が出てきたことが承認得点の上昇につながったと思われる。

第1回目 5月



第2回目 11月



6 研究のまとめと課題

S G E を授業に取り入れることによって、温かな感情交流が生まれ子供たちのやる気を高めることができた。どんなことを話しても周りが受け止めてくれる雰囲気ができ、その結果学級生活に満足する子供が増えた。そのため自分の考えを自分の言葉で安心して話せるようになった。自分の行動や発言を周りが認めてくれ、それに対してうれしさを感じる。またやってみようと思う。そのためやる気を高めると考える。

今後の課題は、Q - U のプロット図にある侵害行為認知群の子供についてである。全体的には満足群の方に移動してきているが、個人的に見てみると侵害行為認知群から抜け出

ることができない子供が数人いる。行動観察からも、何も問題のないように見える子供たちであるが、これまで希薄であった関わりが濃くなってきたことで、「関わり方が分からない」などの、ストレスを感じていることが推察される。関わり方が分からず、トラブルが起きるのは自己主張の仕方がまだ未熟な低学年の特徴であると考えられる。そのため、「関わり方のスキル」的な面も補っていく必要があると考えている。

< 参考・引用文献 >

- ・ 國分康孝・國分久子・片野智治他著 2000：エンカウンターとは何か 図書文化
- ・ 國分康孝他 1998：学級担任のための育てるカウンセリング全書 8 育てるカウンセリングが学級を変える [小学校編] 図書文化
- ・ 國分康孝編 1996：エンカウンターで学級が変わる 小学校編 図書文化
- ・ 河村茂雄編著 2001：グループ体験によるタイプ別学級育成プログラム 小学校編 図書文化
- ・ 國分康孝・大友秀人著 2001：授業に生かすカウンセリング 誠信書房
- ・ 諸富祥彦著 1999：学校現場で使えるカウンセリングテクニック（上） 誠信書房
- ・ 田上不二夫監修 河村茂雄著 1999：たのしい学校生活を送るためのアンケートQ - U 実施・解釈ハンドブック 小学校用 図書文化